

“今週の国際宇宙ステーション(ISS)”

- ★最初のISS構成要素打上げから1726日経過しました
- ★第7次長期滞在クルーのISS滞在は106日経過しました

★ISS動向

第7次長期滞在クルーのルー宇宙飛行士は、米国製宇宙服(EMU)の整備・点検を行い、EMUを自分の体に合うように調整するとともに、冷却システムの点検を行いました。第7次長期滞在クルーは船外活動を行う予定はありませんが、非常時に備え滞在当初にEMUの着用訓練を行っています。その時にルー宇宙飛行士のEMUの冷却機能に不具合があったため、今回の点検を行いました。

また、ルー宇宙飛行士は週を通して「デスティニー」(米国実験棟)の微小重力研究グローブボックス(MSG)を使用して固液混合による結晶粒粗大化実験(CSLM-2)を行いました。これは金属がどのようにして強度を失っていくか研究するものです。

なお、10日(日)には、マレンチェンコ宇宙飛行士と婚約者であるエカテリーナ・ドミトリエワさんとの結婚式が、ISSと米国テキサス州とを衛星回線で結んで行われました。



ISSから撮影された山火事の様子。
カナダのアルバータ州とブリティッシュ
シュコロンビア州の州境付近。



オレンジ色が対流圏、青の中に銀色の
夜行雲、右上に細い月が見える

“トピック”

★「きぼう」教育利用ワークショップ開催

8月6日(水)、東京国際交流館にて「きぼう」教育利用ワークショップが開催されました。このワークショップには、実際に教育現場で活躍する教員等をはじめ、様々な分野からの参加者が集まりました。

毛利宇宙飛行士からの基調報告に始まり、NASA、ESA、NASDAの教育への取り組みについての報告や、日本の高校生が行ったタンパク質結晶成長実験の成果報告、パネルディスカッションなど、教育分野でのISSの利用に焦点を当てた報告・議論が行われました。



会場の様子



埼玉県立浦和第一女子高等学校



山口県立厚狭高等学校



土浦日本大学高等学校



実験の一次レポートも展示されました

★筑波宇宙センターサイエンスキャンプ開催

8月4日(月)～6日(水)まで、筑波宇宙センターでサイエンスキャンプ2003が開催されました。全国から集まった高校生30名が、有人宇宙開発やロケット、人工衛星、月惑星探査についてNASDA職員から講義を受けました。

2日目はサイエンスキャンプで一番人気のモデルロケット教室を行い、2段式ロケットの制作・打上げを行いました。飛びすぎて上段が回収できなかった人もいましたが、全員が打上げに成功しました。

夕方からは参加者と職員達がざっくばらんに交流し、宇宙への夢を語り合いました。

参加した皆さんにとっては夏休み一番の思い出となったことでしょう。



ロケットの推進原理についての講義



発射ボタンを押す緊張の一瞬



楽しく有意義な意見交流の場



2003年10月1日から宇宙開発事業団は独立行政法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)に移行します。

問い合わせ先: 宇宙開発事業団 宇宙ステーション・きぼう広報・情報センター TEL: 029-868-3074

ISS・きぼうホームページ <http://jem.tksc.nasda.go.jp/> Eメール kibo-koho@nasda.go.jp

※「ISS・きぼうウィークリーニュース」に掲載された記事を転載する場合、本ウィークリーニュースから転載した旨を記述ください。